



鹽平齋衰記

リ 5
10437



門リ 5
10437
巻

三三三

49-19897

鹽平勢表記



大塩平八郎乱妨之一件

分類 了付
番号 3520
通番

天保丁酉年二月十九日大坂市中大騒動及
之根由と云ふ大塩川崎河村屋敷の役人
大塩指之助解致書高野主父平八郎高野あ人の何れ
而好む内之隠保と企とし密に彼輩の君と
し大塩の木角持大矢玉茶あその他り
礼妨高野諸人困窮と云ふ人々自分平八郎
拂致書高野身今之事致し施りし門高野其古性

たのんをりつけ杯^一為^一專^一時^一言^一と何^一い^一西^一陽^一景^一の^一地^一伴
賀^一号^一後^一老^一板^一有^一東^一陽^一景^一の^一跡^一於^一山^一城^一者^一及^一同^一乃^一二^一月^一九^一日^一經^一常^一
同^一心^一所^一と^一巡^一見^一お^一ま^一ら^一ま^一し^一り^一と^一平^一第^一中^一存^一人^一十^一九^一乃^一友^一ま^一り^一と^一
飛^一道^一と^一ま^一お^一ん^一と^一月^一其^一用^一忘^一及^一山^一不^一打^一撞^一連^一判^一と^一月^一平^一山^一
物^一江^一第^一日^一時^一後^一報^一反^一忠^一波^一十^一七^一乃^一の^一夜^一東^一陽^一景^一の^一跡^一於^一山^一城^一者^一及^一
卷^一大^一怪^一父^一子^一隱^一深^一と^一女^一と^一海^一人^一及^一い^一い^一月^一十^一九^一日^一巡^一見^一と^一女^一延^一川^一
こ^一お^一成^一平^一山^一の^一山^一城^一者^一及^一う^一書^一杯^一と^一音^一深^一形^一中^一竊^一と^一江^一第^一報^一及^一
と^一せ^一と^一ま^一い^一し^一と^一未^一と^一実^一否^一お^一か^一り^一市^一故^一大^一怪^一父^一子^一巨^一捕^一と^一
お^一か^一り^一し^一る^一未^一又^一送^一院^一角^一東^一組^一日^一と^一女^一九^一第^一右^一留^一の^一夜^一人^一後^一と^一
大^一怪^一父^一子^一隱^一深^一と^一女^一と^一海^一人^一及^一い^一い^一月^一十^一九^一日^一巡^一見^一と^一女^一延^一川^一
こ^一お^一成^一平^一山^一の^一山^一城^一者^一及^一う^一書^一杯^一と^一音^一深^一形^一中^一竊^一と^一江^一第^一報^一及^一
と^一せ^一と^一ま^一い^一し^一と^一未^一と^一実^一否^一お^一か^一り^一市^一故^一大^一怪^一父^一子^一巨^一捕^一と^一
お^一か^一り^一し^一る^一未^一又^一送^一院^一角^一東^一組^一日^一と^一女^一九^一第^一右^一留^一の^一夜^一人^一後^一と^一
大^一怪^一父^一子^一隱^一深^一と^一女^一と^一海^一人^一及^一い^一い^一月^一十^一九^一日^一巡^一見^一と^一女^一延^一川^一

笑^一馬^一の^一醉^一半^一第^一兩^一人^一と^一い^一海^一人^一及^一い^一い^一及^一深^一平^一第^一父^一子^一
深^一波^一と^一鉄^一波^一西^一東^一陽^一景^一の^一跡^一於^一山^一城^一者^一及^一同^一乃^一二^一月^一九^一日^一經^一常^一
同^一心^一所^一と^一巡^一見^一お^一ま^一ら^一ま^一し^一り^一と^一平^一第^一中^一存^一人^一十^一九^一乃^一友^一ま^一り^一と^一
飛^一道^一と^一ま^一お^一ん^一と^一月^一其^一用^一忘^一及^一山^一不^一打^一撞^一連^一判^一と^一月^一平^一山^一
物^一江^一第^一日^一時^一後^一報^一反^一忠^一波^一十^一七^一乃^一の^一夜^一東^一陽^一景^一の^一跡^一於^一山^一城^一者^一及^一
卷^一大^一怪^一父^一子^一隱^一深^一と^一女^一と^一海^一人^一及^一い^一い^一月^一十^一九^一日^一巡^一見^一と^一女^一延^一川^一
こ^一お^一成^一平^一山^一の^一山^一城^一者^一及^一う^一書^一杯^一と^一音^一深^一形^一中^一竊^一と^一江^一第^一報^一及^一
と^一せ^一と^一ま^一い^一し^一と^一未^一と^一実^一否^一お^一か^一り^一市^一故^一大^一怪^一父^一子^一巨^一捕^一と^一
お^一か^一り^一し^一る^一未^一又^一送^一院^一角^一東^一組^一日^一と^一女^一九^一第^一右^一留^一の^一夜^一人^一後^一と^一
大^一怪^一父^一子^一隱^一深^一と^一女^一と^一海^一人^一及^一い^一い^一月^一十^一九^一日^一巡^一見^一と^一女^一延^一川^一

後波をせし了。遂宵に及いりて夜遠て時仕向れ命せ
らば此の存豊五郎流後而より立おれ故定りる年八節方以
来り甲子存存平家之武能之怖せしめや余市一ふ
ふ使由り立居る誠無失し是は傷ら又く評破と
事起あり新野助は此の西組方右面指右面一人
大徳父子に捕ま未命とて此の事新野助と申し未
く虚実も怪と申分らぬ是は死にせしめし事
念為仕い六容易に捕方左の記しし事又く
評家ありし内大徳助と申すは此の事評家
原より由海進と申すいし事甲子年初より一
有る事奇集り秘し甲胃或も小具足小舟とてしり
急らも昔とてしし事いしや未めしりし河内在りし百性
大務奇集りし事とてしし事いし酒喜おお候し秘能
筒たりし技いし事名野友と申すは此の事評家
言評家の根えと存せしめし事いし事いし事いし事
いし事甲子節方人数違ひし事いし事いし事いし事
并去藏しし事大筒とてしし事いし事いし事いし事
高し事人教と申すは大筒の車と申すは川を
わし事見孤太鞍等と申すは陣列と申すは侍と申す
お大見舞し事ありし事いし事いし事いし事いし事

有る事奇集り秘し甲胃或も小具足小舟とてしり
急らも昔とてしし事いしや未めしりし河内在りし百性
大務奇集りし事とてしし事いし酒喜おお候し秘能
筒たりし技いし事名野友と申すは此の事評家
言評家の根えと存せしめし事いし事いし事いし事
いし事甲子節方人数違ひし事いし事いし事いし事
并去藏しし事大筒とてしし事いし事いし事いし事
高し事人教と申すは大筒の車と申すは川を
わし事見孤太鞍等と申すは陣列と申すは侍と申す
お大見舞し事ありし事いし事いし事いし事いし事

家窮民と救いの痛たつと思ひ立ぬ汝も加勢致
候一ある邊宵に及ひしひの切害つた一物とに
一履を踏むと思ひ立ぬ汝も加勢致身の前敷
主考たふ板身より等とて或は車と書き世書
とてとせむといはれ一先一番の朝長助之助と書
の車と云々と切取一火筒と云ひ焼く事
目曰大朝長氏ハ轉廻中より巡見し帝ハ朝長
物々々一車中の屋敷十九の為事なり橋作
同人所巡見し之日とお定り堂殿ハ一車
物屋金取とも括し一他年八年迄るまは
西陽をりた方い中候に之を夜舟人有り

西陽をりた方い中候に之を夜舟人有り
小おしい空是難と約事と書し一他風出カス

朝長を救ふと焼く次小三森西田何とて大筒と打
込放たし一夫とて東へ押り川崎与力所へ移し
焼く行運威はしり一忍多くし川崎 津高も大
筒とてら一焼くは後く三浦橋筋の所候とてお出
洲放す一西寺町小同人所とて皆く大筒とて焼く
東寺町より十所目筋にお向付候も三浦高も
大筒お焼くは例に於て大筒は之れ十所目筋の家
安く焼くは神橋小浪に押りし家子橋と切取

い夜海舟のふけ又南流三河三蔵方海舟人申渡り
重守後り西角と流とくうく新く放火
種波橋とも押渡り今橋通流光音古馬の宅日大
尚と打込是も種々のと前と関と火前打込の
申大馬渡り又勢より法信宅の及中古橋を新
も石浦焼夫とまう二もふり九一も今橋通と東
一もいふ種橋をとも打込二も井是後夜若浦是後
夜直比次金是後夜平野屋の信宅何とも古橋く
大筒とくうり也焼とる

但一平野屋金是信宅と西後とあり古馬とせり夫

有く古橋とくうり同案とありるゆい幸新も古
蔵焼夫せり是来平の平日わんくうり家申
ナ後く古馬とあり古馬若り申く種と焼とる
積家と家とあり必録屋りの古河のふり
と皆人種あり也
お忍候とのいふ種橋と東日海り南つ内平野所
来平右衛門日長と信宅とも大筒と打込廿肘大
道と東りゆり大筒と放い是の東り役人あり
と皆一ものあり放り次と大馬前住友喜次郎
宅とく放火とまうり思業橋とぬ海り流海所

舞りと共に焼立り行良西も風流く吹おし出給す
さる〜〜 抛り〜 市井の老翁男女連と失い放火
せし様〜 家〜 重浪家成と元のけり賊とせし〜
着の〜 志のま〜 して老〜 せと持け知とと抱と書
い素足〜 泣叫い〜 せ〜 ぬと〜 ぬと〜 ぬと〜
子と〜 いら〜 同深狼狽とら有取目も〜 せ〜
とを〜 所〜 安治川の未〜 せ〜 せ〜 や世界と乱及
少〜 せ〜 家成と持運〜 書とと他前の知者成と
手尻〜 せ〜 せ〜 やらと隆勢と後中〜 け〜 人の佛
う〜 向海常の出〜 せ〜 せ〜 知者海鏡の志と

ても秘〜 在〜 友の〜 せ〜 火の〜 手信不〜 来る者〜 一人〜 せ
〜 せ〜 務施の流〜 せ〜 せ〜 せ〜 命と〜 流〜 せ
とが〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 恩使の〜 せ
西に〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
海於山城考及〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
と母〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
紙荷物〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ
〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ

をより板中と稱ひしう板中氏を一人は大筒方の者
小目と甘の鼓是之を知り次第後より板中氏ゆりの中へ
悪徳なる筒笛うひけゆをともりしととも方
物言ふ終は板中氏の再ふ文程も大筒方の者ゆり
いそりしう時悪徳大蓋と切せ放ちし板中氏の言違
ふやまを看たり陣笠とくせり了後そゆてしと終ふ
弦之物を蓋と切せ放ちしと違ふ大筒方の物板とく
ゆりしう是も偽り悪徳のものな事を強と稱し武音
と扱持一回に散りと板中弦と和井山陣も及家来松浦竹
江神とも仁とぬ人を追てり力えしまる大筒方の者と二力

きし程と力と因り遊戯し雲浦氏も悪徳の頭立者
角かき人切倒しは存敵しませぬ狼狽を散れを及但守
その継与り石門を度しむ仁も衆と先とく悪徳と遊拂られ
し新く悪徳方の根の悪徳の種より大筒魁希車流地
流り等多し分れし中しと彼切倒さしし若の首と切
流のえしはしぬさ方し持ち悪徳の頭立の者と討たれ
る者然る後言作急とちと流さしし呼しう板中氏人
おしんとあしし是より大筒流地とすゆりゆりも人とな
く帯付し大筒に悪徳大筒人との者を追て拂付後流地
は風場ししけしし三層舟場上所三所の火の事

終く中々人百少防くくおえりく船場は南安所西之
中橋少大川東に東接場上所は南八本所少大川西に東
場東に少東に河役所西隣に代官屋敷あり河役所は東
西より別乗軍屋敷に焼失と相て後少の女史池あり
東河東に川少あり大川に少少少焼失と十九百辰の少刻
少の焼失少少少少少少少少少少少少少少少少少少
の西に少少少少少少少少少少少少少少少少少少少
要院の者共の掃金浪もまきと難く難くも程りありあ
り大強部なり

右に少少少少少少少少少少少少少少少少少少少

泉州 彦田城主

国部 彦濃守殿

八百余人

和州郡山城主

松平 甲斐守殿

七百余人

抄州 尾ヶ崎城主

松平 遠江守殿

八百余人

日 佐田陣主

永井 托布守殿

三百余人

右に少少少少少少少少少少少少少少少少少少少

因に曰抄品言概城主七十九百と軍旗して少少少少少

くは河城代古井大炊頭殿より子使として止るは
是に仍く達中一備と云ふは是に思位不指し洗地
の中と言敷云く市方洗地有るは備は山氣いと敏也
是止と風多と云く是に害否は不知

河城守 志高河城代

古井大炊頭殿

七百余人

より西河城守の諸將を以て排附使として立らる
は何事も亦く未の上列に各河城にお城の中

相大徳の如く後思位之行儀を以て味方と云はる大徳
父子初の一味と者として一命は清に知まると東の湯事

お道より洗地一挺門上より四つ橋辺の川より刀屋に掛り
と又死骸一ツ門上

但し女死骸は思位の中より有由風中

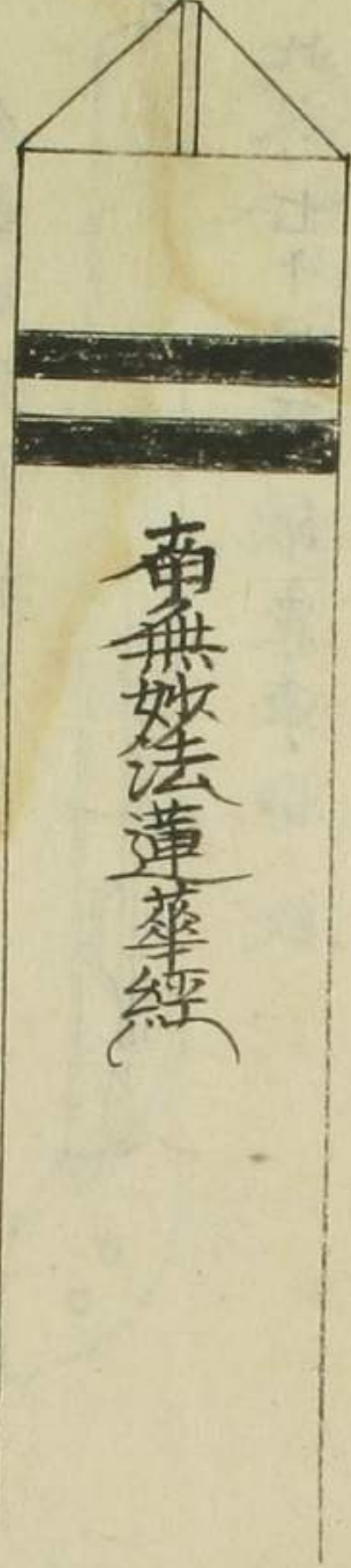
其余焼場へ井戸より洗地刀焼金銀散文十川上より由
相之程く所家へまゝ水宅に立向りしは思位と云はる
以中も方く思位を危端家妙と納りしは思位と云はる
故業村もお休と十九より古河源と云はる切足合を以
まはる 河城様より河城御方より故郷へおるは
底と字と業御お初より相頼焼く程遠人の分
河城様へ格別く河仁意く河觸有く道に橋芝飛張

本價造るる事とお城市中秘法云斗りて折る本金と
 少ありたりと被りし事と有り酒の二分一造り作らる事
 之價並酒の二分一文如斯法也之造りて國病の者ハ遊人
 之病ハ是路頭小飯死する者又教と志く是大由く上大極父子
 之礼坊多世之益國病一其價倍と云く折成一存身
 白布系又 滋之貴人 折りの煙と云く之由り事一 大徳好城の
 折り加と懐くさる者ハナリ

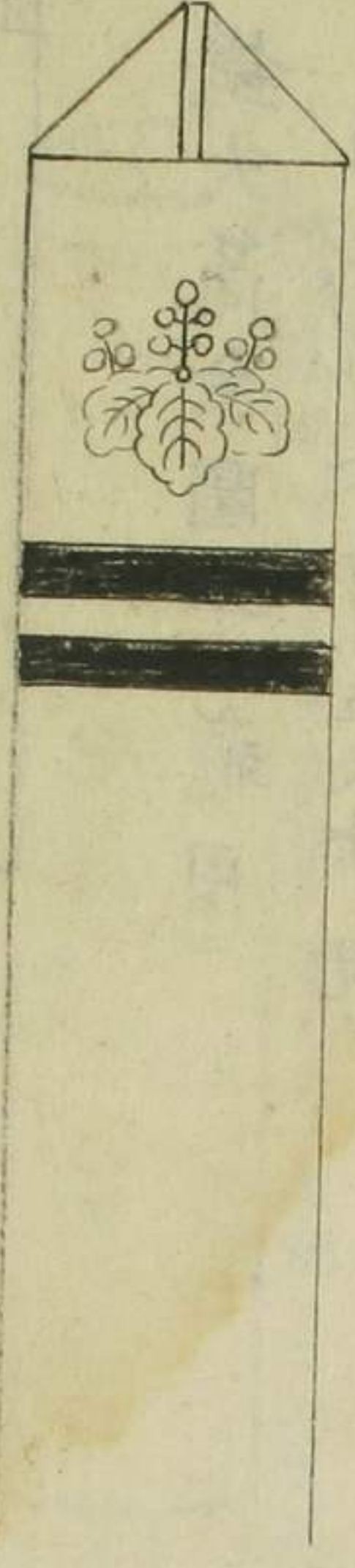
簾之圖



東照大権現
 天照皇太神宮
 春日大明神

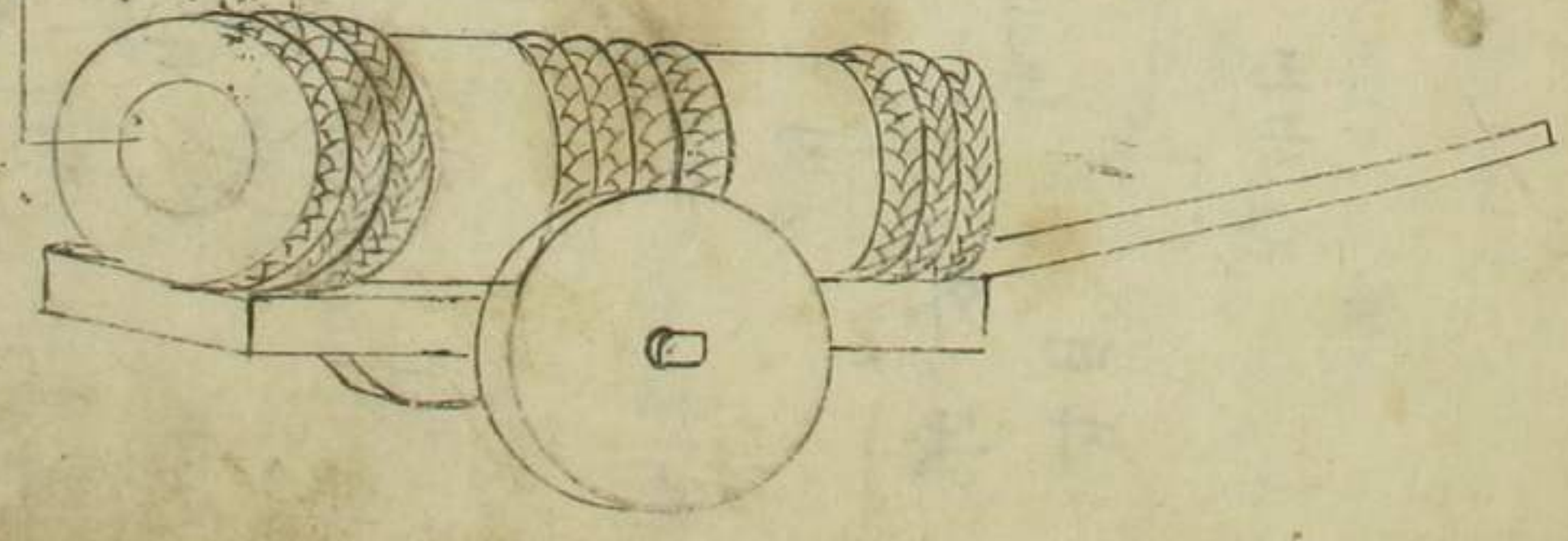


南無妙法蓮華經



湯武西聖王
 天照大神宮
 八幡大菩薩

木造 大筒 圖



此所口棒火矢

但三火口
ウニコニ
アリ

救民

先手之印

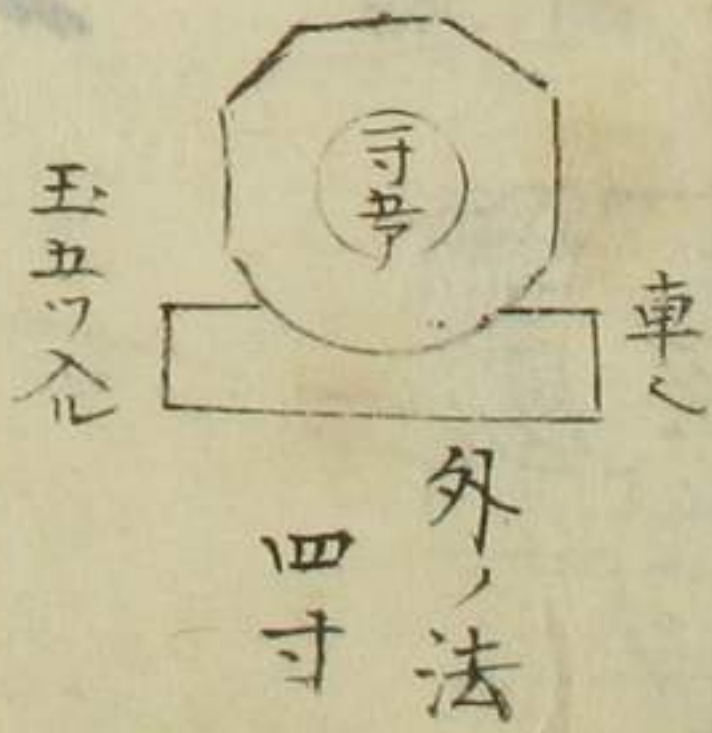
鐵大筒全圖車載用

筒長廿四尺余 基尺五尺余 見之
金象眼登龍ノ紋有



此外七十目筒銀象車輪ノ紋
小筒品々長刀刀火貝等アリ

小口之圖



外ノ法
四寸

車ノ
玉五フ

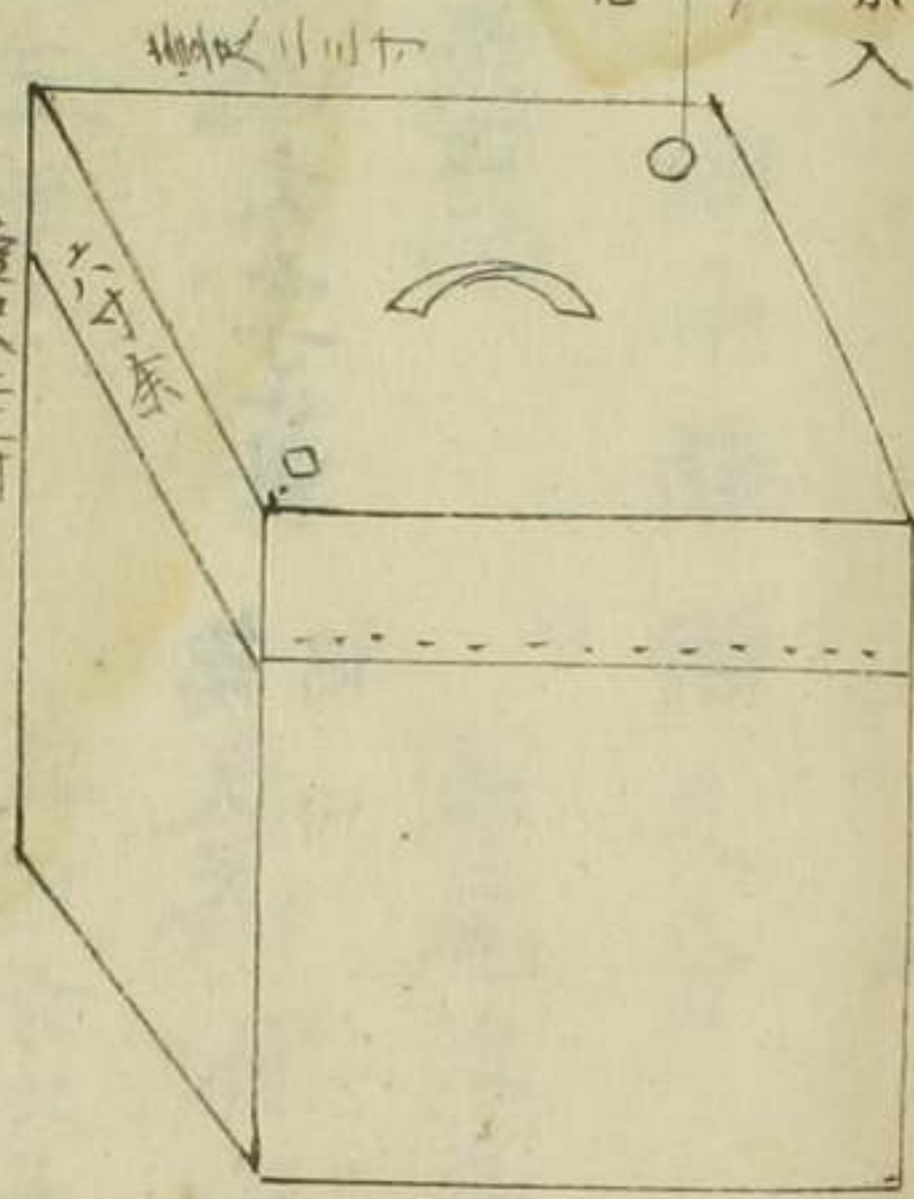
大筒玉藥入

惣体華ニ

黒土トモアリ

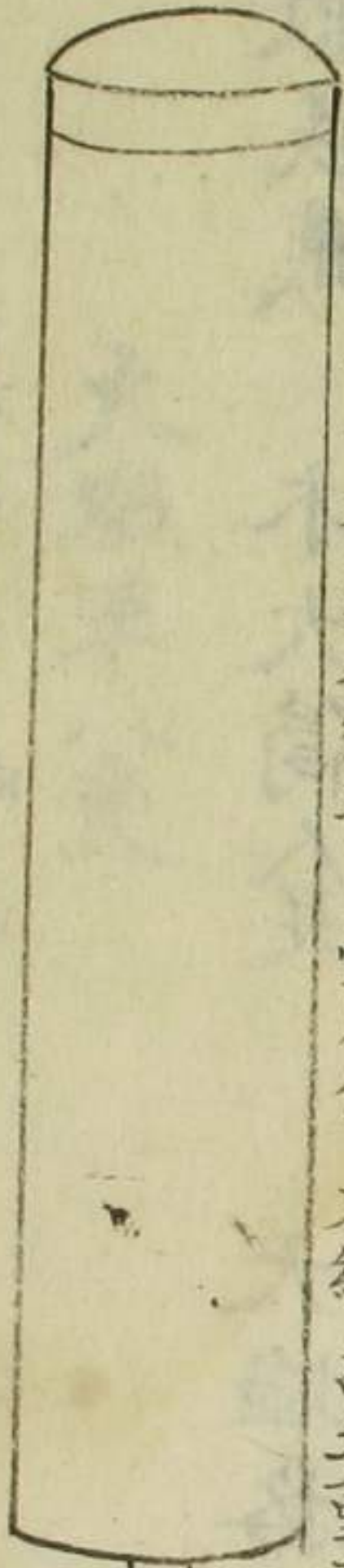
此所藥合ハ
宛ナリ

木筒ノ圖



藥合竹

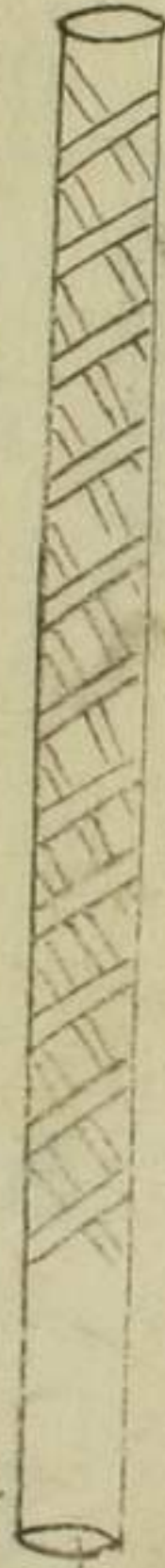
火矢明竹中木蓋木惣長一丈尺余リ木綿ニ而五重巻ク



表蓋



木造リ長一丈尺五寸程草ニシマク



玉ノ圖明木ニ木綿巻ク



寸法上ニ同シ

張ニキ

火葉ハ



投込玉
竹ニ
セウハ
其
白木綿ニシテ

節留ニ

長一丈尺余リ

太ク渡リ

壹寸六分

行列附之次第先手之分

桐紋旗 同 鑄人足

店司倭書 拾五筒

人足三人

救民職 木大筒人足

大塩格之助

金助拾目筒

文字旗 同 鑄人足

大井店三良

拾五筒

人足三人

同中陣備之分

鑄 白井孝重 深尾浪平

口 茨田郡次 志村周次

口 秋山三平 上田幸次良

大塩平八良

鑄 橋中志重 高橋五重

口 梶云澤 堀井倭重

口 日傳七 安井圖書

鑄 阿部長助

口 曾我岩藏

口 同志五郎

口 西村利三良

口 同 喜八

口 同 吉助

後備之列

銃

渡と良左衛門

小筒拾挺

具足

瀬田海之助

大筒人足三人

長持

百三拾人人足

銃

近藤権五郎

小筒拾挺

葛籠

右惣代者三日の出立ハ大槍初ノ重立ハ一の甲冑と
帯一或ハ小道を或ハ面と色ニ加勢々々のハ津屋後津書
等々何れも板身の襦袢日本刀竹筒と持もあハ小筒と
射人ハ大筒小筒ハ陣立波一ハ
大筒ハ本とハ遠方圖々々々本の中と彫板筒ハ竹の輪と
入ハ物ナリハ小筒々々ハ帯俵の鉄砲ナリハ本筒々々ハ尺五寸
高概々々ハ火術と目いハ赤土の同極々筒貯ハ布小持大
箭又鉄砲の大筒も々々々々ハ箭の骨の如

檄文々々

落々々々

四海困窮、一夫天祿永く絶人、小人、小國家と治り、
わん災害並に、昔の聖人、深く天下後世の人の為人
の良し者、と評し、置け、東照神君、おも、親察孤獨
小控、を憐れ、との、是仁政、基と、此作並に、然
る、小世二百五、孫年、を、同、追、よ、る、人、と、臨、看、と、
お、り、と、極、大、切、の、政、事、一、推、考、里、の、役、人、た、も、賄、賂、を
公、小、授、受、と、く、賄、賂、を、一、奥、向、中、の、内、務、と、し、て
道、徳、仁、義、等、と、な、り、拙、と、才、を、立、身、し、重、に、役、柄
小、任、と、一、人、一、家、と、能、く、し、の、小、智、術、と、運、一、と、
知、り、不、の、百、姓、を、過、す、く、月、金、等、。付、是、也、年、貢、法

彼、不、喜、憂、苦、一、を、上、と、存、を、無、事、作、く、候、と、一、後、一、追、入、
の、み、の、故、と、海、と、困、窮、と、お、申、の、故、人、と、一、を、怨、と、し、の、若
り、此、中、に、故、り、た、は、深、表、と、一、治、一、統、を、一、統、を、一、統、と、
入、天子、の、是、利、を、一、別、と、一、所、深、振、り、候、言、貴、貴、の、物、と、
秀、い、有、り、民、の、怨、死、天、と、通、一、地、震、大、災、山、と、一、此、也、
漫、々、と、却、と、色、と、候、の、天、災、流、り、一、候、不、立、敷、亂、雑、お、
候、の、皆、天、と、一、海、と、一、所、深、振、り、候、言、貴、貴、の、物、と、
く、ん、と、一、附、と、候、人、折、智、と、一、事、大、切、と、一、政、と、一、執、行、し、
り、を、一、金、并、と、一、を、一、手、取、計、と、一、お、り、一、實、心、お、
百姓、の、怨、と、一、衆、心、と、一、若、の、若、の、後、と、一、等、に、お、

徳と海も湯と武王の擗位なり孔子孟子の及徳も
なり且つ使藝居波一以兼父母弟長僕いふ言ふ
お成大坂より善と役人共物一穀の仁と忘る海と痛
手と改道と花と事一いつらに廻来はた天子御事所の
系能は廻来と活字もつ波のそあつて次お事
位の新と事と下りし者たと石挿なりといつて
伯とつた大島其農人の命と持運は小児と教
ゆは口紙言依り何事も人民は徳川家と死に者
お遠りたと湯と海は金と等の不仁おと其
猶も亦依り筋と等と度と其か一お坂市中徳氏

斗と大切は海は前も中通り道徳仁義と存とわ
と身取と其は海は不届と且つ都り内大坂
金持も年来徳と志は貸附は利徳と金銀は持来
と莫たはと取未曾有く有徳と事一町人の身を以
大島は家老用人格は用らまはる自己は田畑等と
穀も不持はつて何と足は言一け第の天災と
と身取は思もつ波縁死に食仁を食とつ故と
才と實業は味とつ波縁は物と喰ひ家宅等へ入
或は揚屋系金は大島は家老と傍にいふ言は酒と
湯水のゆへ兼持はつて一徳義の時節は徳義を

まゝいひ河系との故女とて不運之平生に依りて
腕りひの等此事我討主長夜の酒高もけし事
具示のち行諸役人多小極り長政は右の者たを
取し先下民を救ひし事と雖も未日と堂語の事ね
場とにちりて一実と神盗とて天運聖人の所しふ
叶ひし事と救なり事撃長の繁家早堪忍難
湯行勢ひ孔孟と徳を有る事ととも之細乙下の
高と存し血族の業と化し世世有る者として合
り成と憫し若しつに諸役人とて先殊伐いぬ
長し而も大坂市中に金持と町人夫と海賊不及ひ

下いり存共事も究極と解るる金持沙系諸役と
内源し一実と依米等文と小配高ひぬ
揚河系據り内田島不待之波若くもいふ不待等
いれ又母意子家内と事方あること一往し難
事と存金米あること一往し何ふても大坂市中
死りしと仲傳へしり里敷ととも一別も早く大坂に
向う近きいし向うに在る波をさすこと一往し
く事案と下民と事の道念として高村飢饉
救いぬし波若又とも月菩薩ヤリ有る者ハ
事と征伐いぬと軍役と事いふこと一往し
企

こと遠くはるく首領及わが御りまゝに悟り候へば
中興神武帝の御政道は寛仁大度な御政に由り
あつて年来藩者遠く風俗は一統の政體素に立成り
四海の民は天子の徳を仰ぎ父母妻子とていひ死
後の極楽を候と眼前にえせり 寛永 天照を神
々時代は後々々々々々中興の氣傳は候へば立成り
可い女多村に候へば御政の御政多し奉り候へば
人衆多し大村に候へば御政の御政多し奉り候へば
物も美人も見ゆ大坂御所へ候へば御政の御政多し
御子に候へば遠く御政の御政多し奉り候へば

義強動と兼りあり候へば御政の御政多し奉り候へば
いり候へば御政の御政多し奉り候へば
失ひて御政の御政多し奉り候へば
と候へば御政の御政多し奉り候へば
額村に候へば御政の御政多し奉り候へば
彼り候へば御政の御政多し奉り候へば
候へば御政の御政多し奉り候へば
先考漢と劉勝朱忠等の謀及御政の御政多し奉り候へば
天下國家と御政の御政多し奉り候へば
今も日月星辰の神説に御政の御政多し奉り候へば

高祖明の大祖氏と吊い君と殊天符と執行は滅ん乃こ
つは君教を尊いり業所業は海と安と汝も眼と開て見よ
此書附小前くもの道場坊之或ハ醫師者より海と
うと申せりい表所全年考眼希く突と思て己に徳
いり速く急を之罰を行ひ

奉天命致天討候

天保八丁酉年月日

折河系接村

店全年考百姓并少前百姓をん

石黄を結と袋入上書小

天より沙山村小前く者をり
石黄を結と袋入上書小
武等とを井くく上はと馬くはしりくを本書小
あまうり字多のり大伴推量とて写し取るる故
湯子脱文も可く魚と

因面白天保七丙申年九月上旬に三原橋三所目
横所ニ在中ニ張紙有くは故昔人より有る足跡
所中立舎とまうりれ 師公儀は海出山何れ
折為れおらり大極乱妨後思ひ合しは
是も思儀く不為り成やと諸人風中より仍る

文と茲山馬ス

近年引續ゆる天災地変五穀不熟して諸民必死絶況被因
窮絶作絶命より全済る政道不正より偏頗私曲
く沙汰にお成る儀と祈り以て此更ニ今々世道より不達
天下の美民より沙汰被絶死の身世皮天逆様不改
事命令此為有ら其法は豊臣秀頼父秀長と志と
継志大志と師い海内と治りし不能と素く其暗弱と
宗一源家康高岡秀長年泊る恩義と不省せり小
徳謀と権(豊臣)天下と奪い海内改勢と有り天下
く権柄と権り上六安按るかこり代々將軍とお成る

近代より江戸へ氣運通るありありあつて人臣の極官に
登り官祿を盛成りて威光日々と増長し人道の大恥と
辱し又下民を欺きつるに當中一の奢淫く流民と其の
ゆへに世に身修り小身者の教科と教りかきし修
小波一親々之途の大罪も刑と悔しし且將軍一
族全殺玉葉連も之郷に流し玉葉に改勢と不獲控
り不富官と修りし刑り大身ししと氏切り家柄り大
名と云ふ前より松平の称号と有りし格別と國主
夫々日陰の身と松の通りとも目障りする天下の大
名表向通行し彈場にお建し園札と埋り不空こりの

國と違倒一 神皇帝王より揚り山官名希に福号は
記し山國礼と云是小教り法を不法と云う言語は
女秘羅科 お礼と云ふ主君と大切存りるに始末は
ミヤノカミと怪事と者過し一命小治の因安事一なりと御
修方と者の罪と故一 大羅小治の事と修一 由重
と記し山大君も先祖の事一 修一 福号は
有と教も不入怪事と云ふと云ふ修一 福号は
指席も不海故日列し國主と云一 言も不修一 福号は
と云ふ一 修一 福号は
表し山修念と云海方交法事一 修一 大羅小治の事と修一 福号は

新と天命を承り天下の諸氏民士ハ及中 百姓所人沙門
と身と云ふ天道様の事と修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は
と云ふ天道様の事と修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は
也一 大將と云ふ修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は
諸國津浦と云ふ修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は

中九月

拾紙

来々十月朔の夜中かたし中々に修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は
集山修念と云ふ修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は

集山修念と云ふ修一 修一 大羅小治の事と修一 福号は

西へ天保山東へは物湯福行

山梨附を自と付金口友誰をも其のけり

大之波

天保山西二月十五日曉七時前東組同人の内左之長
右軍の少将莫多邦年并河合長吉及孫平治而友人
より西陣より湯役所へ参りし内許と云

石忌

公儀所一大事と候事云所

東組同

右見九郎右衛門

近來天変地震亦候氏に不安府私晩字に師にお頼り東組
与力大塩格と申父徳長も儒業少壯より大塩平八郎儀
将格と申丁打頼右左余卯と申一四より火茶
と梅枝一居ゆ家実の之世と暮しゆん徳義存孔孟と
徳と打ち湯氏勢位等ゆ海も我を吊しゆ大義と
唱言と思ふと不顧

公儀を警と申通二帰しゆ梅枝と申方門人の内同組与
力頼田海と申小泉園治節日ゆ内渡道良松の河合
左衛門近藤権左衛平山助治節店司儀左衛門私九
より河合右村實全白井幸左衛門日別殺着村格中

高き所を過るに日者の中初より初に白痴准達も發する
實に恐怖の致す者之に絶えず平八郎の如く高く別
佛指の生質を平生の門人の教養を長知に之を別
れり大板等若其一念に不正と懲戒の旨を過ると改
善を遷り給ふ師才の更り誠意を以て之を以て皆思
ふ感一恭敬あるに彼一以故中守の如く了箇の遠くは
有りしゆも之を海傍波一以若も之を素も右巻法法
者に學問未熟之術之若も私に以て又以て亦一以道と之を
以て長方之に誠之大膽成爲用之怖去致の如く漢了祖
明大祖等之切業に之を解得る波一以故實に不同之白痴

大板の如く後金學あり有るは遠退之響の言を來り了祖
之の如く有る物と措く而して之を之業と命し之を
余の身在り大板の如く之を如く今之人と我の在る處
云々之に大板分印の極に法を法に之を以て行は
る怖る念は増長の方界編に之を以て身分と措く之
悪言大板の如く打擲在り印之を懲戒法に波一以
法一言中句の如く中板の如く皆之を教是に之を以て
之を以て波の如く之を波の如く波の如く之を以て民と
吊いしゆの如く把橋鹿臺之業と民之與らるるに遠退
之に建大板市中家家一町人の利信と之を以て金法

猶亦大志方藏無憂有弟と興はる何時市中に大
と兼りしり其氏近付り在余死高被しを名散文と
他り折に余被に世の核遠言遠いあり種中
何とも歎か發治牙に如身は猶さ沙事云被しと先
祖より思ふも君より法思澤先父母妻子女育何
し是りくお知し後博を具加身極難有仕合き海に
身百伴し企望心変り日意し仕仕勿伴何年お
將中及存し使若くは他し如史年八節方無し被被
御運年台過を邪と之若疾發し勅方後如勅し就
仕係部より幸くお被言し病氣事生り世に歸在

中言身し獲極お成し海とも何年右企為お止後
良醫の希し余く若し博方く我及内誤し如
何事も知し日意し海とも中一利一夕三年も
種余良醫の心在病のおし風係被し海とも止免
也し余く邪く情しは因し身は上言誅意と云し
自分とん付お止し被被し余く良醫の中身も余とん
左風係時にお来り中昂心在病の病之避しん海とも
家出被しい名と中柳子お探し海とも如若く被被
身又良醫の心在病の病之避しん海とも
及存在しい名と上言時病係被し上利補病補一

時に於て一、心方注留し舟中、以て密議之、一乘船出来
山乃自教、若くは以て外、以て各、進言及、由信、之、不、色、
中、者、乃、以、海、之、印、中、後、北、斗、方、所、有、以、計、折、角、其、宗、
指、以、版、中、字、以、我、言、在、之、紙、平、八、部、及、兼、以、之、心、甘、お、止、
以、候、も、之、中、之、計、と、存、長、以、書、一、向、力、お、之、良、以、之、孫、哉、
平、八、部、以、如、病、中、有、在、一、乘、退、急、之、被、之、以、換、以、之、進、之、給、
如、事、中、字、以、書、之、後、以、之、候、候、保、長、書、之、中、中、指、
乃、之、心、海、之、以、事、發、着、之、節、之、進、之、中、良、以、向、中、
中、以、以、之、事、以、之、為、之、亦、合、以、以、以、人、多、以、給、進、急、有、之、
友、計、程、如、病、死、定、事、長、之、候、又、年、中、方、指、之、物、并、候、乃、之、

是、以、之、中、紙、以、今、之、私、若、向、遠、愛、之、候、有、之、以、之、心、不、審、
之、一、我、病、點、と、危、端、以、故、之、候、之、お、察、以、以、乃、又、平、八、部、等、以、
御、之、私、人、之、以、人、之、節、又、散、文、と、過、之、且、不、指、之、書、藉、
等、之、以、以、之、節、以、氏、人、寄、付、之、節、之、お、察、以、以、以、以、
之、有、乃、書、件、以、之、候、接、之、養、給、之、竊、之、自、分、之、事、之、候、
男子、如、産、存、持、之、外、お、飲、以、之、言、以、之、事、之、事、之、心、之、各、如、此、之、
此、乃、書、之、中、中、以、以、信、人、之、中、お、者、以、以、不、指、之、候、且、後、来、
之、事、有、之、候、能、然、之、事、初、之、及、謀、之、企、之、心、人、之、知、
之、以、之、事、知、之、以、之、節、之、在、之、一、之、親、之、事、之、事、之、事、之、以、以、
為、事、之、之、思、味、之、者、之、之、以、之、以、之、以、之、以、之、以、之、
因、有、之、入、散、文、中、

時明白之誤載有之實之天下之為之存ありしやゆ
左目力之及ひしは之患節之生之方もつるは之
博言言終口の事之入合治身之私之病年之老也遊
以得之也新法一大事之候不事言上以之 以言思
何之れ事報之れは之不届之難難通以有世後之肉所
以右有才一書中上之 所城并友所役所 之介能更
等大政之保身存之案一市中人家之火之類之
以礼坊之教弟人之命之抱り以之成急之也氏傳也
以在し以之也火急之事怒り以之也難事一時之考り以
中し以油の難事候 以是難一時節之以在し以在

忠孝之急速之也事高之也以之結之也保之也事之在
之難急之也事高之也事高之也事高之也事高之也
難事一向執事不事計山城守極之也事高之也事高之
以在し以在し以在し以在し以在し以在し以在し以在し
之及ひし以得之也事言上以之候免之也事高之也事高之
其大伴大御之用急之通以有以深急之也事高之也事高之
余前書之也事高之也事高之也事高之也事高之也事高之
以在し以在し以在し以在し以在し以在し以在し以在し
事高之也一且之事高之也事高之也事高之也事高之也
死之變者仕在し以在し以在し以在し以在し以在し以在し

發覺之任に於て時ハ大北ニ於て急所モ定メテ治方有
以テ捕吏ニ附シテ自滅之任モ雖斗以テ後日有存志也
以テ湯敷免知成下リ候モ至親ニ痛仰ルニ及マレ以
万一御憐愍ナク何由留命又ハ湯敷ノ御成成に思ハ
後命ありテ不義必定ニ候所也及御憐愍ホモテ湯
評答ニ成下リ候モ至親ニ及マレ又由テ若シテハ御莫吉也
幸者字向馬御仍先達ナクテ平八第一方ハ若シ若
被モ告知全人ノ所々ノ様ニ付テ是等ノ事トモ
存亡ニ掛リ候モ御一六七年トモ懸換方ニ及命
石位ハ其余無様トモ一日ノ御仁憐之程モ至

以何卒在審所ニ及ハ暫時山内舍布和ナリ建所
之候事也下候モ湯敷判事御上云

但西組方力見所勅内山彦次郎一急百平八第ニ
合不申由ニ由ナク至急御一急付及至方ハ湯敷
事リ以テ沙汰モ兼テ御一急百平八第ニ及
掛ハ御一急百平八第ニ及シテ湯敷也
思ハレ候モ御一急百平八第ニ及

天保八年二月

右見丸石位

市城代様
市定番様
支所頭様

東西御奉行へ市城代江御書上之写

元十九日折城江市中札始之儀申上之

海部 山城守
堀 伊賀守

二月十七日夜山城守組同へ平山城次希山城守より之に
無我密々申上之口組与方大垣格之助父隠居平
八郎系口組与方石格之助并御田所之助小泉剛
次郎口組口人吉見九郎右衛門源造良江之助之友松
之希江月儀在之先達也申上之組口人河合以
左衛門右助次希申上合大膳成儀と企指大夫之申上
之具用之儀申上並之申上百姓在人殺石取組申上合吉平
九日市中之申上焼拂申上之申上容易申上仕在之
者之申上百姓之連判仕申上其令之申上何れ忍入申上
申上之海江原御次希申上申上之申上之申上之申上之申上

予之弟以山城守不中付少知違申より不使之
越年去以流し物不長きしせし部天馬也大筒小筒
後以吉抄年(史より)組所を焚立廻り以有之是時
外野五遊之天馬也其時炮を掛何道も由又其以
若多人般死立之其子徳俊之其子信忠の其子直之
口同くとも其子付河精炮組日心其子交精炮を以て其
拂一各名高信(信)の手付(其)の其子高信守
以掛合湯定其高信(信)の手付(其)の其子高信守
及信長(其)の其子河精炮組日心其子交精炮を以て其
標(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守

後守組(其)の其子河精炮組日心其子交精炮を以て其
也(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守
子(其)の其子河精炮組日心其子交精炮を以て其
之(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守
川(其)の其子河精炮組日心其子交精炮を以て其
其(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守
以(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守
過(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守
乃(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守
後(其)の其子高信(信)の手付(其)の其子高信守

和派人伸之志と抄五之邪雅人抄五奸賊乱教
仕方物所之捨重公大箇之邪一氏若類古洞別
紙之通和申山仔架守義希書申上以色肯金所
より本所指お後り能之仍以是又種波指筋之
奸賊在孫在四方但馬守紐与力石川彦三指先之
之雅人抄拂道筋之捨重公捨長力等永上並仍
以是又増筋之山城守之由云程中合火中奸賊在
仍清海之抄仍以海之也一高其之与中依之所
小在國所手前所人教只門之山城色在困岳の
板山城守之抄仍以山城色在困岳の

配信仔架守義之在横堀川筋本所筋在國之
人教在配和人合市中人氣お徳り申山城色在
在捕方者要之手配り付出候消條之島之森
山城色在孫和言人足お集り急追之呼集消
除信書殘賊之色之抄之り合風守之之市中
不徳山有為之法多和所之見也り申仕替之抄
口柳之抄法信之不徳山有為之付之り人教高仕之
抄之消條信之海之也軍一應受焼失仕再の火焼
券之山城色在御城内之別乘取門役所之別乘
之之口夜之り申所之り大徳り申山城色在

く者九江門救来等々事多面仕存世帝之録云
市中人氣進々亦合之女子其人抑念仕以抑取
其以在右前書之通坂中法之助抱例振舞之
上於別「扇友佛」之仕石川左衛門也誤出之程之亦
留六之江門云扇友佛之仕場所之上先達仕以之亦
何道之非常之佛仕之義進言永調了之云以之
組馬古者之何道之平日之公掛官友於身之中以
巨細之儀云杉返之永調了之上事存以之

二月廿五日

東高野寺行

速名

一 所教

百振二所

和之車路川之口新築地云属云神 院日尔
寺前大境寺前日車寺所

一 撰及西成郡川崎村

一 惣家数

三千六百八拾九軒

寛敷寺方二千五百七拾八

内明家寺三百六軒

土藏 四百餘處
定藏 百餘所
納屋 二百餘所

一 寺教 十四ヶ寺

一 道場 二拾二ヶ所

一 天満洲堂 東本願寺掛所

一 神社 三ヶ所

一 住三神主社 家屋敷十ヶ所

一 家屋敷 二ヶ所

一 家屋敷 五ヶ所

一 用場 二ヶ所

一 家屋敷

一 橋 五ヶ所 橋主家屋敷 五ヶ所

一 橋柱 梓柱 天徳組惣舎所

一 東組舎 二拾九軒

一 門司公居宅 四拾二軒

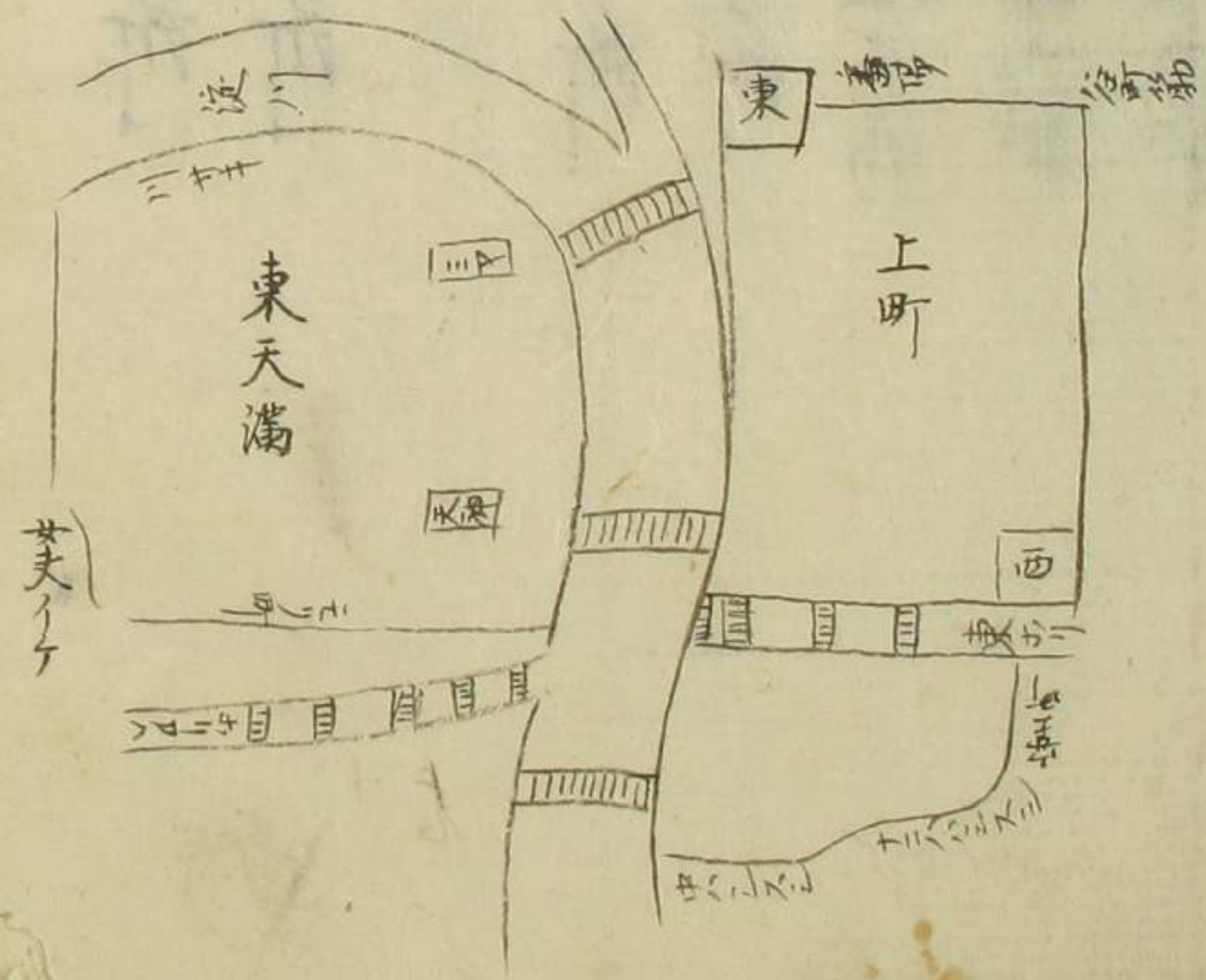
一 西組舎 二拾九軒

一 門司公居宅 二拾二軒

一 与力同心家屋敷 惣古場二ヶ所

- 一 鈴木家跡居宅跡被換車跡之
- 一 浪田若之忠跡居宅跡代官之

二 新 燒 地 圖



右強動一併以管表以河徑進在東上管中云
 所拜候之丹羽龜山信播州姫路候兩家加勢
 之有各所下知有之候者二月廿六廿七日須陣之云
 出候有之

播磨姫路城

酒井家所人數千五百人

先由西之陣、兵庫之陣、明石之

丹羽龜山城

龜山家所人數六百

十三日比邊之陣兵庫

右河野原有くは海兵衛の子孫初結りし故即河野城代
しりし河野止る後若くは其の中より各連中より以り
わたり成りし高家なる軍様よりわたり及人の目と見え
たす大後河野觸喜并山口達と字

一愚童者九折持しありし経道自終り石沙山取立
ち成りし安正後より河野新くは渡初と云はる

二月十日

南組惣年寄

今日与南組惣年寄に云ふ所代出言為年号中
作後し之

一類焼者家成慶場連中に持立し自身番後し
張左山分拂り河野中り付右家財領也しりし安正
よりわたり芝居は張越河野教文より及之場新りしお
達しりし海兵衛下りし

月日

一去年九月市中及礼坊之者有之及八月
渡世向礼坊者有之此礼坊有米價之通有村
市而物類燒之者有別之全體混以有子等之
其有通形燒之者有之此礼坊有米價之通有村
其其市也去年有之礼坊之者有之此礼坊有
之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有

く不渡柳下中達以年

右通作中乃上渡柳今云之此礼坊也

二月廿二日

惣年寄

一類燒冠屋人礼教坊中道形坊芝居礼坊
一礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有
礼坊之者有之礼坊及礼坊之者有之此礼坊有

一類燒冠屋人礼教坊中道形坊芝居礼坊

一 河道至下より新橋所へ混雑中一舟各所へ
くく可く取返りて各舟より言へば御ち道に各舟
一 所へ大なる数人の身大なる後へ後舟程交り
用ひ新橋所へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟所へ及新橋所へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
後舟へ後舟の舟所へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
一 舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人

二月廿五日

一 去十九日放火及狼藉の者有るに女子供ハ別と志
々ハ危殆危殆の舟も有るに御ち舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
宜立の舟ハ舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人
舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人の身大なる舟へ舟数人

二月廿九日

一介度出火有大海

御冥御神樂生玉八懐社御延有之由朱大明
後五日曉世之上別還所育之山倣之火之元之倣
之留之色堀川之東之為觸知其余之在有大
元別之入云以秋之達之由也
右之通之心中不可觸知者之

一在十九日天備川崎より及出火於燒之達以若不可
強固桑抄木板於寺外於寺諸色も大は前之五段
之被書雲山実之五段川合市山より長吉市一也

一主御之痛之及山若極用之達以那之之警方被言
爰以元新焼之達以若追之在備又之重信出不可被
治之も才怪之者之丈之之紅濱也又及御屋之うも
方之之者之出救之是之程之倣有御持并大之寺傳
感也之書後方之推之山極人之も之山之用之極利
難之之物也極之在候之若極屋之足也之乃極焉之門上
所之書也御之之若極屋之足也之乃極焉之門上
今之方之爰候有之之於之丈之急之方之不可及之由
之之中家持家之主也之石磯柳之寺之也

三月十日

一 去月十九日大舟が沈没し、打船の事、仕向安井大
工日雇あり、若くは増船し、乃ち安井船に在り、打船の事、
く、之を去り、大工日雇あり、増船あり、他、お舟の船焼入、
全船、船員、皆、傷方、乃ち、之、由、右、打船、船、問、金、不
中、買、上、賣、渡、所、中、の、買、上、の、故、由、故、言、事、お、成、了、
大工日雇、く、者、人、救、舟、の、急、り、乃、ち、之、乃、打、船、の、
中、買、上、の、石、物、買、金、く、之、買、上、の、故、由、之、亦、後、日、雇、
傳、事、の、由、而、く、若、く、之、物、他、金、不、雇、の、事、由、年、中、
免、
免、

換立了り

右の銀三石中、一石、買上

酉二月

一 去月十九日大舟が沈没し、及、ひ、手、寄、方、之、船、員、人、不、
救、道、船、場、芝、船、之、故、由、以、救、舟、中、の、以、今、夜、大、橋、
少、船、由、後、天、主、寺、門、前、跡、在、之、所、以、以、救、舟、家、以、
之、事、く、在、芝、船、之、故、由、由、之、者、も、今、買、上、の、事、
右、少、船、之、故、由、由、之、者、も、夜、志、有、く、向、前、以、以、
救、舟、之、事、由、之、所、以、以、合、之、の、事、由、之、

一 秘器人石拍其心亦也... 乃取扱心... 乃後橋南... 乃後橋北... 乃王守河...

一 秘燒所... 順書出附... 紙順書相渡... 右三卿大...

酉二月

一 米價... 二十石... 以共... 海邊...

酉三月

一 世皮...

一市の中、稲作の出、右舟、門、米、掛、り、所、は、水、原、の、市
と、米、の、市、は、一、文、と、是、の、後、は、稲、俵、を、賣、り、給、も、此、
下、の、市、其、の、名、も、水、原、の、市、と、名、を、前、に、水、原、の、市、と、名、を、
く、お、ま、さ、さ、し、水、原、の、市、と、名、を、お、ま、さ、さ、し、

三月十日

河村掛り惣年考

一、米、相、場、昨、今、引、き、上、り、舟、掛、米、の、賣、り、已、前、に、賣、
一、市、の、米、也、元、付、五、兩、石、抱、俵、の、賣、り、出、所、引、上、
或、は、一、市、上、の、志、の、賣、り、也、一、市、者、も、舟、掛、米、の、
以、し、舟、掛、米、の、見、廻、り、と、名、を、前、に、水、原、の、市、と、名、を、

右、舟、掛、米、の、賣、り、は、舟、掛、米、の、賣、り、也、水、原、の、市、と、名、を、
右、舟、掛、米、の、賣、り、は、舟、掛、米、の、賣、り、也、水、原、の、市、と、名、を、

右、舟、掛、米、の、賣、り、は、舟、掛、米、の、賣、り、也、水、原、の、市、と、名、を、
水、原、の、市、と、名、を、

酉二月

一、市、中、稲、米、の、賣、り、は、舟、掛、米、の、賣、り、也、水、原、の、市、と、名、を、
或、は、一、市、上、の、志、の、賣、り、也、一、市、者、も、舟、掛、米、の、
有、り、水、原、の、市、と、名、を、前、に、水、原、の、市、と、名、を、
水、原、の、市、と、名、を、

南白尾之字... 甲連組... 者為近付... 方橋系
西... 勿備... 高買... 者... 安... 渡世... 被...

南橋江三所目 上越波所 河波所

堂浦船大所 雜浪場所 南尾魚所

右... 越三御所... 中... 以... 渡... 橋... 中... 山... 岸...

三月十号未上刻

礼坊之者共人相書之寫

大境平公部

年... 野... 甲... 五... 氣... 影... 而... 細... 長... 色... 白... 目... 之... 張... 隆... 手... 方...
首... 毛... 細... 濃... 手... 方... 額... 同... 手... 目... 代... 為... 手... 方... 鼻... 帶... 伴... 耳... 左...
伴... 手... 節... 之... 者... 用... 淋... 形... 之... 境... 黑... 陣... 招... 織... 着... 矣...

因 括之助

年... 古... 七... 色... 黑... 脊... 似... 手... 方... 鼻... 耳... 帶... 伴... 首... 毛... 濃...
向... 齒... 二... 本... 折... 有... 々

瀬田海之助

年二拾五ノ色青ク脊高北内目丸ク二皮リ月
代為方類付鼻高ク眉毛濃キ方リ也

渡邊良徳

年四十一ノ色青白脊低キ方目二皮高大き出目ノ
月代鼻耳帯付

近藤権五郎

年四十七ノ色青赤ク丸顔脊低キ方目丸ク帯付月代
帯付角板也

広月儀左衛門

年四十七ノ色黒願細ク耳削有ク月代帯付

右ノ者乃苗地系河内内三身合治才巨補又ハ及
仕候ハリ討テ控ル者不若ル方子ノ河内内山ノ味
有ク怪者入込ル大坂町事ハ不ハ子ノ山廻連
ウ仕下ル

因ニ右ノ者乃河内中ノ事附ト云又ハ在國ノ事
ニ礼揚ク法候ト在河内中ノ事付六

石老左正捕海魚以若... 爲慶矣 銀百枚可也
石人遠... 石若山

前書之通大坂後... 市仁德... 以解書... 也
市中在... 之安... 業休... 也... 也
出火後... 米價... 也... 也
市中... 國... 也...

少豆升 二百石又
空豆升 二百石又
條米升 二百石又
油升 二百石又
米升 二百石又
米升 二百石又
米升 二百石又

酒升 二百石又
麦升 二百石又
石... 味... 豆... 香... 物... 也... 也
皆... 也... 也... 也... 也

市... 儀... 標... 也... 也... 也... 也... 也
不及... 也... 也... 也... 也... 也
來... 也... 也... 也... 也... 也
竹... 也... 也... 也... 也... 也
此... 也... 也... 也... 也... 也

平八郎因格之由友人志一高之引誘之如依之市中
者不事人多用之深之草ハ程程之目套之石取危
踏長川之變折別摩那山之入格父子隠居少之風流
有之依之西經方力内山彦彦初組口之里新漢の
之者大勢に捕之之向以海人遠言浪人仰之との在捕
之御之程の御之變二月下之油掛所若吉金之痛
更少感之方之大格平八郎曰格之由隠居少之
之者多之三月下之子相少之諸役人若吉金之
少方之因在七の子然之内山彦彦初組在油掛所之向
い若吉金之痛之憐所舍所之呼号之紀明有之

因之痛宅より出火の事一以故諸人火之強立火段之者
此之強付内山氏の子連若吉金之踏也裏は行向之
少少之痛之海小別之住之有之通之戸之閉固之知有
之此の内山氏大言聲之急業少之入格平八郎父子
之出之尋常之御自被之呼少之是也此平八郎
之友之孫也お少之お成之と若吉金の海人お侍之長
之友之孫也程之若吉石被之故内山氏子之若吉少付
戸之打破之踏也少之少之格之助ハ之也此平八郎
之扱一平八郎ハ自害之及ハ以故眼之奪之此平
八郎子之此平八郎ハ飛入ハ向御大勢海之故門之

役者大酒中付二人死骸と為りおれの子頭髪
而は焼燭相好お分りし事も平八爺父の遺し
之の中故を遺し醫師に古宗物に平八爺死骸を
宗同格し助死骸も罵ふ宗物に白海依濃町余
所は北引石山を平八爺火果るに焼くは焼く
中の烟洞の大軒を破りしもの中書所某の
もあつた後火果る火役は消中の掛内山氏の大徳父子
骸と言ふ原に引渡しし所は先手役人村に若衆大酒
二人に引おれし死骸と宗物と繩とを毫も
とあれと掛 **大徳平八爺死骸** と大文字に書し控り

次同 一方本れと下 **大徳振と助死骸** と書

之次と書き原に之属 徳年繩付 依濃町に宗物と繩と
て巻架りし後より内山氏次第 組口に依り書きた
同美津原石山に之余人数大勢附居依濃町に云所不
中所通と人形橋南に渡り大徳と所東に九の助控
りと言原守屋と引渡すは是を見物し者雲
の如く原の如く弄命札坊の張本多の大徳自威と
依濃町(初ら本坊の思ひと水)也

因て曰右原石山を御書はる前大徳御書はる
云いふ 此者も 実八平八爺乳母と由り縁と史婦

こと大徳のにお入致し一年未だ思義と文とを見く
りし平公爺実子より老爺云係七年出生く御も
初着く〜陣持候と信りし〜是文は父乱始に
中蔵候も老爺は居りし遊走〜此中を御平人
爺父子と二月廿五日比介裏に別居候二人志意は隠
し直折爺未だ候爺御忠出と運ひせし〜此を
平公良親子房大なる苦禁〜爺とはたき遊と隠
し是非と知りし文にけり〜是文は老爺の云云
いふ〜以下女行を〜夫婦の件と怪愛ありし二月廿
日比屋病と稱し係書〜〜先親をゆり妻親に在

怪愛振子等出〜此は親里の平世々々向時の以候
代去并大狀類殿取分の百姓故子違法候代〜此家
未だ此に浪進お及いし係〜此所を以候係候書及
此通達有〜此中向〜此成内山正捕〜此は此
風中〜有〜山

三月廿五日觸書写

一 去月十九日市中放火乱始にけり〜此大徳平公爺父子
沖掛町三右衛門老爺を傷方〜此い係此風候有〜
首に捕組〜者是向〜此文友人〜此波日教お果云

邦憲後之者在追々自教...
昭令承継量掛念普請等後...
諸者受之致

三月廿五日酉上刻...
上之寫

大塩父子長所...
大塩父子長所

跡部山城守

堀 仔守

今取油掛町...
日人伴格...
去後...
礼...
物...
去...
志...
子...

子連出子仕死骸目今仕信如也仕焼燭跡在分
以得夫之初端也此節乃乃遠之業之辨也
名在後節之節之者有之乎以衣之之
存之者所持之由組之者平日之先務也
中平八年父子死矣之相遠之官任之委細之
行也之官上之也

二月廿七日

海部山城守

堀 伴賀守

乳婦人從黨連名并正捕自教之區

當時隱居

大塩平八郎

在延方

曰 格之助

衣雨人、乳婦之役也、之、不油辨所之音、之、
宅之也、之、二月廿七日、
平八年、格之助、子、辨、大塩、
教、大塩、入死、骸、因、地、續

在延方

瀬田 辨之助

一旦延延以海... 山ノ高教愛利贊之風休是
若委也故河列恩初村山中... 猛死不發當時
極度

車從与方

小泉潤次郎

二月十九日曉七時以東河役所... 此紀形之節... 延
向... 山ノ高... 及家来一... 仁延排遠
五段亦... 切... 亦果... 是死... 不發當時極度

車從与方平第仰文

大西与方郎

回伴 吾之忠

右平八年... 連到... 亦加... 海兵... 親族... 結交... 大
切... 使者... 之... 途中... 虛為... 梅... 私宅
延... 別... 強動... 付... 之... 庫... 延... 延... 大... 上... 海
中... 投... 控... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...
入軍

口紀同公

渡延 良徳

右之者... 一旦延延以海... 山ノ高教愛利贊之風休是
若委也故河列恩初村山中... 猛死不發當時
極度

櫻井言二月廿七日自教以行一他之余人等輕以爲
首切多々々發向時塩漬

日

近藤權之部

存も無矢り得る二月九日之立前より自分居宅之燒
海之立向り雪強之後之迄言切後之結の外之
中發向時塩漬

日

平山助治部

二月十七日夜反忠作人より日夜山城守若丸圖

江戸表口表ハコウ

日

吉見九郎衛門

衣反忠内作之書附と伴英吉部之渡一重表生
以多一飛向發動と字付福徳吉右衛門漢近也函
江口捕

日

河合御在席

平八郎之風凍校は得ハカヒ叱ら是手ニカ不違ハ大い
忍怖一發動の行々ハ古前二月十日比甲の伴

上達逐電——高村の清志を以て

日

石司儀の

平公第 捨粥之門才高當日劉摯古勸千以受
大角大角の行々故附来高火上月並りか大是
胸中過く大湯鍋の行子之計構之折成主上編所
之燦言眼中ととあふい歩ゆ不り由有石惣佐友
無去の節 邪に折成以部達中二抱並いと幸く
南都色高行のいと高長所幸行寺田丹下組之者に
捕上飯の門後二折成

寺の同公

竹上萬石師

二月十九日 船強劫中付主佐無部一方くは是正
海は以吟味終中山寺高言若我之中華屋高
石捕りま之之後組頭の家名相續之撰書高石
以写

家名相續之撰書類上

私長譜代惣恩之義少事忘却以志至存厚儀是
立誰不肖不可有心刻御高和女後一候松高月十日
師致知縁之老死之場と云く只ん之知高儀

藤入の道石海止事一物儀仕出難然小弟之傳計
何之取之是之ん傳之予建石事上之傳之中之急速
之也幸好之文存印之件一之初身之上之文礼事石願
家名お續之義備之幸願上之忠信儀云

天保八年丁酉二月

竹之島之節

名宗之判

上之島之節

於次島之節

或曰在島之長一味血利一之り之由り之成年をといひ
右之如之形書之長上之島儀初事殊之白初漢之
且形書之甚拙之又作書以一節之場あり

五遠之河能身力

大井之店一節

右之者ハ五遠之大井傳之場將之先源之り助高
之け中之由世店一節平八節二一味一礼始之納
平八節在島之文正以長根之家来 高節子の子
是之者之學問之高平八節一方之寄宿儀一強其
之捨不之寄教一血宗之儀一以由之之後強節の

陽年去京於千中通言京所河津其組之若正補
大坂江引渡之步成入京

或曰在左根家半一之其是年平以第一味之進也
此も之承初一之左屋捕内之常日然之苗也
強勅之噴酒高之席之又之味之強勅之捕内
因之禱也一之左平以第一味之進也
祭之宗教之也此抑世人之何人そや自分之つ身也
聖經之書也教導者者之也情之教害之
及之奉一人而難人そや此の世之可憐也

河内國同神主平八郎伯父
宮腰志磨守

一在者ハ苗日礼物之人教之加一之後村宅は進内り書
母之切害一自分も切後一之り交切換一彼少
一斗切之也一川日之也一死亡之也一世者情之
助命之也之強一也一と云

寺田村實屋
白井孝右衛門

在者ハ苗日礼物之人教之加一之後村宅は進内り書
日飯之禁也此の道一之強年去依人之御守
仍加納也守友組之若正補大坂江引渡之也

入年

後志村庄会

梅田源右衛門

右者ハ諸勤ニ人教ニ加リ後志云々而平八年
家内ニ若ク仍合日通ニ行ハシテ諸事
事終ニ紐口ニ入リ捕入候引渡ニ此
成入年

後人

梅田源右衛門

右志剛務ニ曲者多ク人候方ニ人前支就ト

成先子ニ進ニ所ニと放火ニ後信所所ニ板
本強ク舟の高ニ務絶言亦留ニ是死云々
時培漬

高橋九右衛門

高橋九右衛門

中山志云々法政代山家来ニ此入年

口下三番

梅田源二郎

山家代法家人入年

安田圖書

勢列山向所

安田圖書

手合家系

西村利三郎

松村世村

木村三馬之助

山代官根根及家人孫入字

上田幸次郎

住長海山聖堂

志村圓次

額田幸五郎

江原人

深尾治三郎

白井義四郎

上田与三右衛門

手合家系

瑞竹磯治郎

日 才十郎

曾我長輔

河山良地

松山三平

曾我岩彦

西村亮八

日 七郎

日 忠五郎

日 金剛

〇 〇 〇 〇 〇

石之者所云在捕之於成入牢

横山千勝

梶原源高

口傳七

石之者凡以代官家入捕入牢

藤原金剛

石之者以或名流地之為人言平公希若名親之思以唐
平公希若及以在唐中言以名捕入牢

平公希若僕為十四

松本麟吉

石之者中實者之醫師之將之大塔台學問修仍
之為其云三轉然以高日人教之加り付是言在捕之
成其者之白狀云佐堂之志前又ハ之古日之成
仍大伴抄中ハ也高附入牢

百姓百幸介

皆之在捕之於成入牢

藤原源高

同 嫁

同 伴四

平八郎字子尚三子

今川与平郎

平八郎字子尚

格之助書

曰 下女

右者左皆不補之成通時抄り家之入

長吉全其長書

口書并始

右初入室之書子尚下之口以紙之抄成之書尚志
尚時惣云新補之抄成

板五郎

市田治政之書

左 治助

書林

治三書

河内長春之書

口 茂之書

口 春之書

口 新之書

世系不承其之板本之部又之市田之板之或平八
郎書物之書其口之口以外之口通時河内以願之
或平八郎系止其作之其

旅江左表文部張河守殿介清卷中

進軍之序

明嘉靖夜之舟通海於山嶽等繼日八平山如海而
大板表長發舟山嶽等舟舟之繼若以人
於之書情被抄其以乃一使使以舟繼舟大板板
之船父大板年八節一重立不易容企彼以中在船
節內塞中中乃以舟且別以通地以居三以乃西後
上委細義乃以嶽中越以友而云使以舟一併以人
去年四月中大板保德被書大板事以之節以所
目附之端以彼舟中嶽有之在船以所事以之繼若

同心在船方年市中之風中其舟在舟舟元源
寄之山用向高其斗以役船之舟親之舟日役
亦安云也石被抄舟舟舟之後志年八節宅也
之於我舟舟舟因六月中日人門青山嶽守繼同
以海也之舟舟舟舟我日我舟舟舟舟舟舟
志志甚甚之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
善善善善善善善善善善善善善善善善善善
朝之重愛也之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
平常軍海又之役後之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟
者故金海舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

尚正月二日前書之酒色之及及之并口徑同
自友推之部法彼之秋然也書紙之誤之
書附抄素致之既之之素知以之書利不致
尸中少以之漢文之史不漢意之良以
之書德德之海紀之不忘臨時進逐
等之德之德之德之德之德之德之
之口之之不可因果勢之何何何何
以之過月之旬日不之夜中一第之第
後之德之德之德之德之德之德之
前之部門人之集之集之集之集之集之

德氏及新也早竟而政道之何何何何
代之書之之存身之之存身之之存身之
後之平八第中之中之中之中之中之
易之是身之中之中之中之中之中之
之德之不為德之有之之有之之有之
之之之海之之之之之之之之之之
公儀之而為中一之彼之期之傷之
在平八第平第之之之之之之之之
人之之之之之之之之之之之之之
已成之之之之之之之之之之之之

山城守に言ふ事と白井孫五郎月日守夜渡
色良傷の孫織堀任守登坂府来り十九日
日人并山城守日通言此方日人祖屋敷巡之
前飛道之志在有人在付水河城内は被礼入
積り之方中其節初方大印之企致し以終
打之次第被来知子速山城守に中其方被礼
日人自之孫織堀節志印祖屋敷方亦近之被後
何事也平八郎門人言一味之者故忽其後山必
定之存夜中竊之而後仕事也之白井孫五郎
夫其事也夜中渡色良傷の孫織堀任守

所折之者速捨等下被渡且平八郎方日及下
版中其方海之志孫織堀之志前書今之通承味
之被方中觀之節志之用意之飛道之玉果亦其
見也且其被拂之志近玉一而性之也平八郎
宅之志孫織堀之志孫織堀之志孫織堀之志
之被之志孫織堀之志孫織堀之志孫織堀之志
其被之志孫織堀之志孫織堀之志孫織堀之志
ハ被之志孫織堀之志孫織堀之志孫織堀之志
前書之始末其細如可中其方其方其方其方

途中、病氣之節、ハ午後、之ヲ成、之存、少者、多
と、此、冊、と、中、者、雨、人、百、連、俄、之、東、地、之、以、用、向、有、之、以、
多、一、成、日、夜、及、深、更、大、坂、町、立、以、此、一、於、途、中、
寒、ハ、河、之、面、地、ハ、終、日、ハ、暖、味、中、之、氣、未、以、月、今、地、後、
海、之、物、前、書、平、八、節、宅、之、出、火、之、如、一、ハ、大、坂、表、
及、強、神、山、江、沙、法、有、之、石、得、止、半、一、存、亦、者、之、也、
同、人、存、立、之、強、荒、増、中、少、大、仲、之、之、故、程、法、之、程、
之、一、急、以、得、之、也、大、井、川、如、有、之、以、又、之、之、漸、
皆、有、之、故、若、府、以、此、中、少、以、今、一、門、為、之、何、則、其、
故、一、以、之、事、如、遠、在、中、之、既、之、物、治、節、内、無、之、之、山、

城守伊賀守巡見と波候也、門は坂平八節と不
落入計茲言志助治節、於此是拂念、之能志
無、之、以、得、之、也、存、一、大、事、一、と、波、内、通、以、之、の、我、
弟、一、遠、恨、之、合、誰、瞞、以、者、有、之、一、乃、愛、也、強、斗、也、
上、身、方、氣、未、受、在、揚、り、屋、口、以、是、ハ、相、礼、不、容、易、
吟、味、也、也、と、多、い、之、故、成、行、以、之、志、助、治、節、ハ、勿、論、
山、博、守、也、此、も、水、之、池、之、お、成、結、之、物、治、節、兼、少、者、在、
右、件、大、切、之、事、也、每、一、日、若、く、是、揚、り、屋、口、ハ、強、中、
村、在、之、人、之、も、大、急、之、内、ハ、以、此、中、有、之、方、宜、受、不、在、
此、程、也、存、子、之、存、頼、之、内、以、此、中、有、之、以、此、故、及、其、好、

山崎

二月朔日

望月守老中 水野越前守殿 不承 申付
海部山城平友江門感懐之写

海部山城守

其方組与力格之助父大塩平八郎 義不容易不
届之企と以申一故大礼始之及以山崎子進馬
消除糸捕方丈之及首馬雲徳及連之教礼相

徳山守被是之配之貴打以故之儀之一取之申
以不承教世所之申之
海部山城守

惣評

抑大塩氏之其元阿州峰濃架之家の中
大塩平助之名宗三百石高馬廻り勤方士以り
其祖流大塩集組其力之申之謂之平八郎元

尾羽の産る今川義定末葉の由知少少大徳
氏之養子と行ふと云ま故実子と云希今川
と名宗也孔坊の御着用と云梵も今川義元
可也由之云之此人生得大膽別勝と云細柳
捨御所也且陽明字小眼と云と軍學も
也之也智衆不秀と云勅中裁評早く賄給食
ら以勇と云前新右衛門と云私曲と云切腹させ
と云更之者と云刑と云似ひ或僧徒不如法と云
或之切腹丹と云徳と云罪と云不幸の良民と云
一之云也方と云當時と云明と云祐と云徳と

天性能高殺伐と云と刑殺と云事甚多且自分
文學武藝と云自ら高慢と云思ふ事云云如く
又徳と云徳の癖と云一年退位と云預ひと云徳
月と云成利發と云中亦と云号善子格と云勅
と云其身文武と云門人と云教導と云の事
者不天鷹外道所為と云不容財金と云存附表
欲仁義と云
公儀と云改事と云徳判と云と打捨と云者
一併格と云助不與と云と養子格と云自分
男子出世と云と深と云寵愛と云溺と云七之徳

こゝ今日を危宗して送謀く肺と堅く端端と文を
とけあま車体おれおと何の事やけり市井と
礼坊とく億年の人ふ最苦とせま身の大甲と
死く生前小地獄小懲りとも是れ行ひのや支物
と始はしりたりと終有る事鮮りの金言とく如
始はしりとも堅くと始はしり礼坊行儀の身を
残は後世の人はと前車は滅く忠存の道と知
る

須日諸人大塩と事一総行得狂文流首其奈程と之戯
他と形は是又物者懲悪の一溜り且六婦女童最の儀の

高大喉くく小写其奈程と事一総行得狂文流首其奈程と之戯

大意

高大喉くく小写其奈程と事一総行得狂文流首其奈程と之戯
須日諸人大塩と事一総行得狂文流首其奈程と之戯
他と形は是又物者懲悪の一溜り且六婦女童最の儀の

大惡

市隱士曰大惡陽子之異書諸奸入黨門也於今可見諸人爲逆之次第者獨賴落文之存而亂妨次逆者必由是而倣焉則廢乎其不道矣

大惡之道在暗明德左若左燒於市中知燒而后有悉悉而后能狂狂而后能騷騷而后能愚愚而后能打備有混乱皆有鈇炮失先後則近敗今之欲明德天下暗者先騷其國欲騷其國者先燒其家欲燒其家者先堅其身欲堅其身者先邪其心欲其心

者先太其膽欲太其膽者先賣其書欲賣其書者先廢大道廢大道者左其書賣其書左鉤人鉤人而后賣其書賣其書而后膽太而后心邪心邪而后家燒家燒而后國騷國騷而后天下亂自金持以至乞食壹是皆以道身爲勝其本腐而未宜者否矣其則厚之智薄而未所思者成未有之

浪華大火扁

古今大火烟連雲
走往銘之有緣者
大坂今度大騷動
一生懸命味方勢
立竊振翅被身鎗
中之一向不寄附
四軒屋敷第一番
東照權現天神廣
神社佛閣敢不畏

遠見何處耽難令
様子追之途中門
大鹽櫻放大筒焚
四十餘人名爭勲
驚目形狀宛如軍
傷人燒死不知員
自夫與力六十軒
大小寺之稟稀存
町家之庫何足論

道具衣類無暇出
猶離天滿遷船場
鴛池三升岩城店
安土早切南不越
二日一夜火不納
御城東西奉行所
陣取京橋大手口
燒出人入救小屋
人相書廻食議密
海内雖廣俄為校

鉄炮音響天地喧
仰山金銀忽燒込
其外數多火入倉
諸見無恙而御堂
段之類燒上町方
其終相遺戒非常
胡乱連中吟味長
徒黨者成御手番
諸同大名催出張
五尺身体無所藏

或及自害遇生捕

追附又看仕置場

右

東潮子戯賦

落首

有文の書物、あつたに賣拂ふ是をむけんの路くろ
はんとあてすとつら平々又やうかと誦くりやる

平八郎命後

平八此のくちへ終る万氏乃
ころとあふふのくちへ

嘲鹽平詞

學者衝啞本大筒

御蔭類焼奈空々

良智良能不油断

高慢我慢作夢中

久太追徒遺死耻

捨造褒過悔文通

嗚同心衆馬柄敷

頭与命毛遺無切

注之向ふ多希 雷久を和と指勇雷氏大佐と當せの
賢士と極と捨造ハ京師の儒者平八命と常小文通
より口ん流下の河ハ當時の流り喝たり

喝白くふとんせうのくちへハとんと命とやうあふ

けりやうた

少子行
名

之法

琴

萬

津
太鼓

ち

音

り

小

り

ら

り

や

り

代

り

吹

り

け

り

り

太鼓

那

り

後

三
報

三
鈔

今川
家傳

好
抄
圓

大筒
小筒

七拾目
十文目

抄世苦為利の義を性古國より調合等以
多し者より行り色しるま度長え和の調より
堅く御制抄に抄成抄中絶仕知る後

北前湯原表多替法有以海産元手爲
一搗之由程又東由一由井丸掃
有人肺肝と碎之約味大方相個在眼
等もお定之由より肺と手不苦の道以程
少く粉茶とおぬい石と率八合焼法
之故之候と好樂世及本箇と一
皮用玄梅と救氏と類お瓶法と一
常檀おと細し味仁和漢と遠言お拍
ら次減法と名と一替方仁和漢と海
店開と節神儒佛と二尊圓と忘色仁義

幸帯圓と忘印紋と事と礼物お用い拍丸
金と純丹と掃丸お事と自生と忘と礼
とと痛まじりるの殺の妙

功能

才一産後の婦人達と山と妙と○少児忘物或は目
えきひりる○老人目まじとと足無と妙と○首
切の家賃のれま咽と法中と受法合と○お焚
草志と受教書あると悲歌の演お言と○少児
人お立新お病付の妙と○お初夜更お言と
るの初者お言と少のじうワキハと有と別と

人の二友、果不似、檀の香、り、り、以、法、法、令、之

用いす

前年の露と不え、く、用、中、作、く、向、く、く、く、く、く、

禁物

か、く、山、く、丸、く、栗、く、瓦、く、多、く、く、明、石、網

本家張本所

天満四軒屋敷

中齊堂勢

一取、罪、所、近、在、午、為、文、の、張、紙、有、之

奸邪異案

心下、有、高、慢、而、降、下、無、刀、或、曰、恐、是、仁、虚、欬、
全體、奸、相、血、脉、將、絶、子、息、亦、阙、礼、也、是、因、陽、
明、症、不、全、解、捧、火、通、燒、散、主、之

捧火通燒散方

大騷	黄金	粳米	亡燒	武士	町家
困窮	鎗術	炮術	我術	天磨	六王
巴豆	狂仁				

右件四搗、辺、川、水、漬、其、體、腫、脹、
説、有、之、是、ヲ、実、験、
近、未、宇、治、山、先、生、是、ヲ、霜

用ユ忽ニ治ス

宇智先生
秘傳

霜薬製方

石件先ツ油掛ニ宇壺ニ入鉢ニ上硫黄焔焔之氏火ニテ
焼キ真黒ナル度トシ火鉢ニ下ニ塩ニ漬テ置時臨テ用ユ

夏ウの月

或キそノ危カれク一ノもハ辛イをモ不
ち境乃リ席ヨうしたしいま中ハ小思ッもくも是レ也ト
身ニヲシテハのレぬ人那集止海ぬこうの

中ノ也志ろシ打ハ殺シたレ此ノ角ノ教ヲ一ノもハ打シ目ト
の内廣イ位方と捨ちテ狭クカキアシアキアキ
海ノ也ハと意中ノ角ヲもウらレハレ人ノ怨ヲ
あツこソ細クウラウラウラウラウラウラウラウラウラ

夏ウ害

大ニ志ハばレ荒レルレ也ト。徒ラ意ハ人ノ也ト。此ノ教ヲ一ノもハ打シ目ト
ろウクル人ノを遣ハシ。多クシテハレ角ヲもウらレハレ人ノ怨ヲ
と算時ヲ也ト。罪ヲ報ハいルも後の世にハ也ト。此ノ教ヲ一ノもハ打シ目ト
ろウクルや

山崎のついで

馬麻子者のち煙うん。所ハ下知なり。焼給
好滅派ノ諸炮と曰ふんてホントサテヤ礼とナリト
ニトヤウニヤリトと後方ニ此れん志よおちらや法法
ニトナリトニテマニトニテマニニニ日ハ大強神

川崎洗心洞中寄函士

二月十九日茶事

河相伴

瀬田 渡邊
近藤 店員

侍合

田舎多二軒
入金ゲラ

掛物

寂期凶師
二首怪死

表装惣焼坊
今川信房ノモエル
遠朝公箱書附

風屏

尾割

河加勢惣台形

釜

雷声

大強所所

香合

旅二味

炮口ウ風痴坊
ヤキ又キ

茶巾

佗組 エホウノクミ

花入

禁止洞ヲ

花占壇カハシ

水指

水指

但ニ惣佗ノナラシ茶
板中イナあり

茶入

斤ツキ

袋イナ茶チ子コ子コ

茶盃

ヤクサカ
カシ

但ニム子ムコらラキアリ

茶杓

早具ハヤグ
銘ナリ

筒フ本ホンナリ
再マタ之ノ公キミ丸マ

建水

多打タウチ
梅ウメ先サキ

蓋缶

一弁人

茶

ワヤノ表

ワノタシモ
コト

會席

石イシ貫クワン舟フネ好コト羅ラ切キキリキテテキキヤヤウウアアククリリ小コ梳シ

汁

又又至至磨
ハタキ菜

印

身古大根少口
テウホア
オニトイワニ
夏カサ

菜物

大根切
ヒん菜

燒物

王菜
丸燒

吸物

淨如粉
人馬十

八寸

三ツヤウ
大左色
吹向々々味骨ツケ

子者

ヤケリ
大格
カケ
汁

菓子

カニシヤク餅

惣菓子

大平堂
大出山

右

くゆらんまを〜と申も薄えとみあは^いは
此の何事〜あつたまは〜
名と命とわい^道テ久〜
い

川崎の車馬ち積取さまに無儀に押さるは
後述有り〜
前々あり^子明令〜
ま〜ま〜
い〜

け〜を控理の神像乃箱ふ納免とてにぬ
と結らん〜
とつけたい^ごコリやく〜

大徳平公伝福友お月二月六日の夜控意の者
とまゆゆと集ノ車馬ふり〜
たふお人神子の神ノお国り〜
海と良路の物とゆら神子のま〜
持〜

お來ません引きおろす坊にうぬぬんせき
とせよいともあてなりと物くあひとつとけ
ろを平良の^平免^平や^平同とせいおや
酒ハ今夜を^平免^平とつ^平海^平とせ^平先^平皆^平
不審ふのひはに^平先^平生^平美^平ハ何^平故^平と^平あ^平う^平
まんと云と^平ま^平の^平天^平や^平あ^平の^平用^平い^平秘^平なり^平ぬ

ち大納^平と^平諸^平役^平人^平役^平志^平村^平の^平橋^平本^平忠^平義^平清^平
をり^平と^平せん^平と^平件^平定^平と^平彼^平ハ^平手^平渡^平と^平奴^平を^平色^平を^平
捨^平飽^平教^平百^平丁^平用^平云^平と^平仰^平の^平原^平と^平と^平知^平と^平さ^平ら^平ふ

き人のもの^平進^平家^平ハ^平や^平と^平あ^平と^平橋^平本^平忠^平義^平
捨^平飽^平と^平そ^平の^平ま^平と^平の^平ま^平と^平役^平人^平志^平の^平
何^平と^平の^平何^平捕^平屋^平に^平や^平と^平官^平信^平の^平ま^平と^平何^平や^平
の^平ま^平と^平捨^平飽^平と^平や^平と^平靴^平と^平ま^平の^平方^平の^平捨^平と^平あ^平う^平
ま^平せ^平ら

橋^平本^平忠^平義^平清^平と^平な^平ら^平ん^平と^平捨^平飽^平の^平靴^平と^平ま^平
と^平せ^平は^平と^平先^平と^平ま^平と^平捨^平飽^平寺^平村^平の^平押^平寄^平橋^平
本^平の^平と^平ま^平と^平ま^平と^平捨^平飽^平と^平や^平と^平捨^平飽^平と^平な^平
ま^平と^平捨^平飽^平と^平靴^平と^平と^平一^平日^平た^平つ^平と^平あ^平と^平と^平と^平

多の油をよれよせて油舟より主中と役人中帆
と名を直さし攻をせらるる諸君も小^をちる魚とて
らるりしといふ事おの油舟とつまむ役舟申す
油舟とて約てらるる

ナレトを良き備うんと大徳うんくそ急い事は
あされたるおれ^を引大徳小徳付とてな大徳り
と以やいやく徳付とておれつゆふりや
とい急いめとゆふありま^くやとあ^りゆ
そ^くつ^あん^まさ^さき^のもの^まあ^りて^こら^しる^を良

多き備治良き来きり^ゆく^をあ^りて^らる^る徳^り
油^舟と^て約^てら^るる^を良^き
大徳なりといふんて^らる^る

一代愚将

ほろりし^る麻堂のり^ゆの愚者^は途^の端^を
と^らる^る眼^の若^もと^ある^るま^さに^なる^る間^を
し^しく^しく^のら^るる^をし^しく^しく^のら^るる^を
ち^の極^の多^のり^の在^の所^には^まさ^にと^らる^る

うめいひぢき添書と扱はるやめいひらん
らん卯不別の次第添書は併し私心死
とすゝえの少量のうは洋定ゝゝまひり
物作そ押成す。世々めいひ人愚知は奉り
るうけ卯に徳作ふるを痛せは福友のあら
あふんぐり是利のをもとれは人別と割
らん人を壁に氣遣の意をうりゝ。徳とすゝ
吾程の福友のあらふらん。徳ありは家ごと
空つゝゝを矢の車大とす知ゝゝを一編不
私始とすゝ

添書中の私心事位廿一事。小記録より編
執の新存其の令く別事と痛を以未
明の邪智を弘君らんが為大旨を志す。事

四月の雪り。雪ひゝ。胡蝶うた

邪と鄙も皆知らん

今記目をあらう。何ふらん添て

あはれ成らん。小庭の流る

能はる。思眼り。私心の小記

まはれ。添て。思ひとら法

きく 滝き 滝目の 水は せと 釣 かけ

ハ 鳥 ころ ね 焼 の 二 八

ひりり と ねる ねる 物 の 火 を

花 の かりり 小 園 と 小 橋 へ

左 根 と くら おも いた 強 ちう

水 糸 又 水 を 投 ぬ せ け

月 つけ て 糸 橋 の 水 と かり せ

お 言 こと 方 小 物 と 混 柳

柳 月 せ 俄 ぬ 語 の 呼 け ち

何 ちう 田 ちう 一 里 せ 山 次

起 来 ちう 枝 と ちう ちう 思 東 風

花 殿 の 何 ちう に ちう ちう ちう 虫

右

相 撲 組 合

川 崎

孝 祐 田

礼 婦

大 苗

郷 出

早 馬

整 馬 幸

郷 着 燈

大川
燒橋

大平口
陣幕

雨山堂
丹

燒師
繩液

板本
手柄山

悪黨
追手風

板本
高根山

国々
関戸

肉山
大勇

施
頂

平井釘
岩起

御代松
萬歳

去る根ふはうの葉二重致の事

はりたる紙　わさ石井行指の事及ふはうの事
木の葉二重致の事　其れ共海舟の事有る君又は
之々々の所へ移すは口々々の事　因之を立心は好ま
し居るをうらむは平山と云ふ大い福あり候人　其
師子と云ふは油一具と云ふ國の旗の事也此の事
を　　と云ふは平山と云ふは好まぬ事也此の事
尹に云ふは對面と云ふは平山と云ふは好まぬ事也
段の事一と云ふは好まぬ事也此の事也

極く流るるは其の計略を故に海流は是程多し
海流は其の計略を故に海流は是程多し

一、海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し

海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し
海流の計略を故に海流は是程多し

海流の計略

海流の計略

かゝる恩も亦た我も亦た著る用とて此も亦日
月にかゝる恩は亦た我も亦た著る用とて此も亦日
砂浜も亦た我も亦た著る用とて此も亦日
明も亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
海浜も亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日

大坂中津代

土井大が漢

何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日

大坂中津代

土井大が漢

何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日
何れも亦た我も亦た著る用とて此も亦日

中波甚山

曹山同帳字

中波人致也... 師到幸也

方得清之也

遠多明多字

福植 善授字

中波因致也... 師到幸也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也

根葉善授也

之也後行成也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也

中波因致也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也... 師到幸也

中波因致也... 師到幸也

古河の天皇
天皇の御

畑村

夫人の御
御の御
御の御
御の御
御の御
御の御
御の御
御の御

古河の天皇

古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇

古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇

古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇
古河の天皇

江橋

在江中下少者

活身
初初

杆也

楊柳所生之目

新冷月

守初節

後

刀如也

長壽

次壽

初而

每接

清也

遍照境

真戒

深
之

望杆

方海地而名中台
中伊古名至正節
坎印古望待

少秋
古藏

金古故

湯管之目

年古也

惠
地

志
香

鹽平
樂天堂

精粹記

佐藤了齋

氣著

友友

押

中臣

神田

長

友友

了齋

友友

友友

了齋

友友

了齋

友友

了齋

